

編集後記

*『人文論集』第五五号を無事刊行できる運びとなりました。今回は掲載論文七篇、研究ノート一篇をご寄稿いただき、幅広い研究分野の研究成果をお届けできることとなりました。また、二〇一五年に退職されました竹中憲一先生の略歴および研究業績も掲載させていただきました。前号に引き続き、主として法学部の学生に向けて、語学・教養部門の教員の「研究紹介」も収録しております。

*今年度は相澤正己先生、ライシ・ポーリン先生が定年退職されます。これまで退職される先生がいらっしゃる場合は、その年度の『人文論集』は退職記念号と銘打ち、先生方の略歴・研究業績の紹介と同僚の先生からの贈る言葉を掲載する形で刊行されてまいりましたが、今回は先生方のご意向もあり、そのような形をとらないこととなりました。それだけに、退職される先生方お二人から揃って玉稿を賜ることがで

きましたことは嬉しい限りです。

*過日、法律文献情報センターでこれまでの『人文論集』を手取る機会がありました。正確に調べたわけではありませんので、誤解がないとも限りませんが、法律と語学・教養の区別をすることなく両方の研究論文を収録した『早稲田法学会誌』として出発し（一九五〇）、その後法律編と人文編とに分かれ（一九五八―一九六二）、一九六三年に『人文論集』が誕生するまでの変遷を、恥ずかしながら初めて知ることとなりました。とりわけ、印象深かったのは、創刊当初の編集後記に書かれている『人文論集』のあり方をめぐる考察です。第三号の編集後記から、山田博信先生の言葉を紹介させていただきます。「法学部に学ぶ学生諸君の教養の拡充と深化に資することもまた本誌の使命である。それゆえ、教員である以上、苟くも傍観の立場にとどまるべきではなく、熱意と愛情を持って『人文論集』のいっそうの充実が計られねばならないであろう。」自

戒の念を込めて、山田先生の言葉を深く心に刻みつつ、本誌が、法学部生が自らの視野を広げ、豊かな人間性を育てていくための刺激と一助となることを切に願っております。

（岡山記）

二〇一六年度編集委員 大森信徳、
岡山具隆、首藤佐智子、武黒麻紀子、
守中高明）

二〇一七年二月一〇日 印刷
二〇一七年二月一〇日 発行

非売品

編集者 岡山具隆

印刷所 (株) 敬文堂

発行所 早稲田大学法学会

東京都新宿区西早稲田一六―一
〒169 18050 電話 三三―三三四一四一
振替口座 東京 九一七〇九二一番

<http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/handle/2065/5246>